

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

		単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】	
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)	
全学 共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
	保健福祉学部 共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎			○	○
文学				2	◎					
日本国憲法				2	◎					
生物と生命科学				2	◎					
数学リテラシー				1	◎					
こころと人間				2	◎					
経済学入門				2	◎					
生活の中の化学				2	◎					
人生と哲学				2	◎					
法学				2	◎					
比較文化と国際理解			2	◎					○	
アカデミックスキル		基礎英語		1	◎					
		英会話入門		1	◎					
		実用英語コミュニケーション		1	◎					○
		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
		メディアリテラシー		1	◎					○
	情報処理基礎		1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	高齢者支援学Ⅰ		1	○			◎	○		
	高齢者支援学Ⅱ		1	○	○		◎	○		
キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援		1	○				◎		
	実践キャリアプランニング		1	○				◎		

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

		単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】	
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)	
全学 共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
	人文学部 共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎				○
文学				2	◎					
日本国憲法				2	◎					
生物と生命科学				2	◎					
数学リテラシー				1	◎					
こころと人間				2	◎					
経済学入門				2	◎					
生活の中の化学				2	◎					
人生と哲学				2	◎					
法学				2	◎					
比較文化と国際理解			2	◎					○	
アカデミックスキル		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		フランス語入門		1	◎					○
		フランス語発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
		メディアリテラシー		1	◎					○
		情報処理基礎		1	◎					○
	情報処理演習		1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	地域プロジェクト		1	◎			○	◎		
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	キャリア形成支援	2		◎						
キャリア形成支援	ライフイベントとキャリア支援		1	○				◎		
	実践キャリアプランニング		1	○				◎		

看護学科

学位授与の方針（DP）

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。
3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

DP4【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

【専門教育科目】

- 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育の「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
- 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
- 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
- 「看護の発展」では、地域包括ケアおよび看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通して社会貢献する態度を育成する。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護形態機能学Ⅰ	2		4								◎	○								
看護形態機能学Ⅱ	2			4							◎	○								
臨床栄養学	2				2						◎	○		○						
感染と免疫	2		3								◎	○								
疾病学総論	1			2							◎	○								
疾病学各論Ⅰ	2				4						◎	○								
疾病学各論Ⅱ	1				2						◎	○								
看護のための臨床検査	1				2						◎	○								
薬理学	2				2						◎									
保健統計学	2			2							◎	○								
社会保障概説	2			2						◎		○								
家族と健康	2				2						◎	○								
対人関係論	1		2							○	◎	○								
発達心理学	1				2					○		◎								
臨床健康心理学		1				1				○		◎								
医療と倫理		1		1							◎				○					
健康教育論	1				1						◎	○								
看護学概論	2		2							○	◎		○	○	○					
看護理論		1				1					◎	○								
看護倫理	1				1					○	◎				○					

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護実践の 基盤	看護技術論	1	2								○	◎		○	○	○		○		
	生活援助技術論演習	3		6								◎	○			○	○			
	診療関連技術論演習	1			2							◎	○			○	○			
	フィジカルアセスメント技術演習	1		2								◎	○				○			
	看護過程論	2			4							◎	○			○	○			
	基礎看護学実習Ⅰ	1		実習								○	○	○	○	○	○		◎	
	基礎看護学実習Ⅱ	2			実習							○	○	○	○	○	○		○	◎
	公衆衛生看護学概論	2		2								◎	○		○					
看護実践の 応用	小児看護学概論	1			1						○	◎								
	小児看護学方法論	2			2							○	◎		○			○		
	小児看護学演習	1				2						○	○				◎			
	小児看護学実習	2					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
	母性看護学概論	1			1						○	◎	○							
	母性看護学方法論	2			2							○	◎		○					
	母性看護学演習	1				2						○	○			○	◎			
	母性看護学実習	2					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
看護実践の 応用	成人看護学概論	1			1							◎	○	○						
	成人慢性期看護学方法論	2			2							○	◎		○					
	成人急性期看護学方法論	2			2							○	◎		○					
	成人看護学演習	2				4						○	◎	○	○	○	○			
	成人慢性期看護学実習	3					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
	成人急性期看護学実習	3					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
	老年看護学概論	1			1							◎	○			○	○			
	老年看護学方法論	2			2							○	◎		○					
	老年看護学演習	1				2							○		○		◎			
	老年看護学実習Ⅰ	2					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
	老年看護学実習Ⅱ	1					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
	精神看護学概論	1			1							◎	○							
	精神看護学方法論	2			2							◎	○		○					
	精神看護学演習	1				2							○		○		◎			
精神看護学実習	2					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎	
看護実践の 統合	在宅看護学	2				2						○	◎		○					
	在宅看護学演習	1				2							○		○		◎			
	在宅看護学実習	3					実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	◎
	看護マネジメント総論	1			1							◎	○		○	○				
	看護研究	1				2						○	◎					○		
	看護研究演習		3						2	4			◎				○	○		
	看護総合演習	1							1	1			◎	○	○		○	○		
	看護総合実習	2						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護学特論		1							1				◎					○		
看護の発展	地域包括ケア	地域連携協働支援論	1			1					○		○		◎					
		地域生活支援論	1					2				○	○		◎				○	
		緩和・がん看護学	1					2				○	◎	○	○					
		NPO論	1	1						1			○		◎				○	
	看護キャリア形成と看護実践	看護キャリア形成論	1			1								◎		○			○	
		災害看護学	1							1		○	○		◎	○	○			
		国際保健論		1			1				○	○		◎						
		ウィメンズヘルス		1				1				○	◎	○						
公衆衛生看護関係科目	疫学	2	2			2						◎	○							
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	2			2					○	◎		○			○			
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	2				2					◎		○			○			
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	1			1					◎	○		○			○			
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	2				2					◎		○			○			
	保健医療福祉行政と政策	1	1					1				◎	○		○					
	公衆衛生看護活動演習	2							4			○		○	○	◎	○			
	公衆衛生看護管理論	2								2		◎		○	○	○	○			
	公衆衛生看護学実習	5								実習 実習			○	○	○	○	○	○	○	◎
養護に関する科目	学校保健	2	2			2						◎	○		○					
	養護概説	2	2			2						○	◎		○		○			
	健康相談	2	2				2					○	◎				○			
										◎	1	34	22	3	4	0	6	0	1	11
										○	10	22	51	21	40	29	29	23	11	0
										計	11	56	73	24	44	29	35	23	12	11

看護学科

学位授与の方針（DP）

- DP1【知識・理解】
 1-1）看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
 1-2）看護実践に必要な基本的な知識を修得している。
 DP2【思考・判断】
 2-1）健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。
 DP3【関心・意欲】
 3-1）自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲を持っている。
 3-2）健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲を持っている。
 DP4【態度】
 4-1）看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
 4-2）根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
 4-3）社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。
 DP5【技能・表現】
 5-1）看護の対象と良好な関係を築くことができる。
 5-2）地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 看護学科カリキュラムは、看護実践者の育成を目的として、教養教育と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得及び態度を育成するとともに、看護に関する倫理観を養う。
- 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
- 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
- 「看護の発展」では、地域包括ケアと看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通じて社会貢献する態度を育成する。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

科 目	選 択	高 一 種 類	養 教 一 種 免 除	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
教職概論	2	2	2			2								<input checked="" type="radio"/>								
教育原理	2	2	2		2									<input checked="" type="radio"/>								
教育心理学	2	2	2			2								<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input checked="" type="radio"/>
教育社会学	2	2	2			2								<input checked="" type="radio"/>		<input type="radio"/>						<input type="radio"/>
教育課程論	2	2	2			2								<input checked="" type="radio"/>								
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	2					2						<input checked="" type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
特別支援教育論	1	1	1					1						<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
教育方法論	2	2	2					2						<input checked="" type="radio"/>								
看護教科教育法Ⅰ	2	2						2								<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
看護教科教育法Ⅱ	2	2														<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
学校保健教育法	2	2	2					2								<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				<input type="radio"/>	
道徳教育の理論と実践	2	2	2			2								<input checked="" type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>
生徒・進路指導論	2	2				2								<input checked="" type="radio"/>		<input type="radio"/>						
生徒指導論	2	2				2								<input checked="" type="radio"/>		<input type="radio"/>						
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2			2								<input checked="" type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>
教育実習事前事後指導	1	1	1							←				<input type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>					<input type="radio"/>	
養護実習事前事後指導	1	1	1							←				<input type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>					<input type="radio"/>	
教育実習Ⅰ	2	2											←			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
養護実習	4	4											←			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
教職実践演習(中・高)	2	2											2			<input type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>			<input type="radio"/>	
教職実践演習(養護教諭)	2	2											2			<input type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>			<input type="radio"/>	

福祉学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
 1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
 2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。
 3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探索しようとする意欲がある。
- DP4【態度】
 4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
 4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
 4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
 5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 福祉学科は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。
- 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。
- 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基礎として専門教育科目は、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。
- 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
- 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
- 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	必 選	開講時期・選授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
	修 括									1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	
ヒューマンサービス基礎演習	1		2																		
基礎実習	2	2	2																		
福祉入門	2	2								○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎			
現代社会と福祉	4				2	2				◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎			
社会学概論	2		2							◎		○									
社会調査の基礎	2						2			◎		○									
相談援助の基盤と専門職	4	2	2							◎	◎	◎	◎	○	○	○	○				
相談援助の理論と方法Ⅰ	4			2	2						◎										
相談援助の理論と方法Ⅱ	4				2	2				○	◎	◎				○					
地域福祉論	4			2	2					◎	◎	◎	◎	○	○	○	○				○
福祉行政と福祉計画	2					2				◎		○		◎	○						
福祉経営論	2						2			○	◎	◎		○							
社会保険論	4			2	2					○	◎										
高齢者福祉論	4			2	2					◎	◎	○	○	○	○						
障害者福祉論	2				2					◎	◎			○							

科 目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
		1年次		2年次		3年次		4年次															
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
専 門 教 育 目 的	子ども家庭福祉論	2			2						1. 現代社会と子どもと家庭について理解する。 2. 子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の進展の歴史について理解する。 3. 子ども家庭福祉の法制度について理解する。 4. 子ども家庭福祉に関する福祉と保健について理解する。 5. 子どもと家庭への援助活動の在り方について理解する。	◎	◎		○								
	公的扶助論	2				2					1. 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉政策と実際について理解できる。 2. 生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容、手続、管理運営体制について理解できる。 3. 生活保護制度における専門職の役割と他職種との連携について理解できる。 4. 低所得者層・ホームレスに対する課題について理解できる。 5. 自立支援プログラムの目的と実際について理解し、低所得者層の自立のあり方について考察できる。	◎	◎	○									
	医療福祉論	2			2						1. 保健医療サービスの総合的な理解とその活用を図る知識・技術を身につけることができる。 2. 保健医療領域における専門職の意義と役割を理解できる。	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		
	就労支援サービス論	2					2				1. 就労支援の必要性と社会福祉士の役割について理解し、説明できる。 2. 雇用・就労の動向と施策について理解し、説明できる。 3. 障害者や低所得者への就労支援サービスについて理解し、説明できる。 4. 就労支援にかかわる専門職の役割について理解し、説明できる。 5. 就労支援にかかわる基礎知識を用いて、就労支援について実践的に考えることができる。	○	◎	◎	○								
	権利擁護論	2					2				1. 相談援助活動において必要な知識となる憲法・民法・行政法の基礎について理解できる。 2. 成年後見制度・日常生活自立支援事業を中心とした、権利擁護に係る諸制度について理解できる。 3. 社会的に支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践ならびに権利擁護に係る各職種・団体および専門職の役割および責任について理解できる。		◎	○		○							
	司法福祉論	2						2				1. 更生保護の対象者も社会の一員である、ということを確認できる。 2. 更生保護制度の概要について説明できる。 3. 更生保護制度における関係機関の連携・協働について説明できる。 4. 更生保護・司法福祉の現状と課題について認識し、考察できる。		◎	○								
	社会福祉の歴史と思想	2		2								1. 近代日本における社会福祉の生成の歴史を学ぶ。 2. 貧困救済、監獄改良、感化教育、廃娯運動、セツメント運動から労働運動等代表的な社会福祉思想について参考文献や配布資料、ビデオ等を通じて学ぶ。 3. 社会福祉先駆者の思想からソーシャルワーカーの価値について考察する。 4. 特定の人物について選び、その実践と思想をより深く主体的に学ぶ。	◎										
	介護技術演習	2		2								1. 安全で快適な生活環境の必要性を理解し、実際に展開できる。 2. 日常生活における基本介護の技術を理解し、実際に展開できる。 3. 緊急時の対応について理解し、実際に展開できる。									◎	◎	
	ファミリーソーシャルワーク論	2						2				1. 社会的状況と家族の相互連関について理解する。 2. 家族の構造と機能について理解する。 3. 福祉的課題を抱えた家族のケアをアセスメントし、ニーズに応じた支援の展開について考察することができる。	○	○	◎	○	◎	○					
	スクールソーシャルワーク論	2							2			1. スクールソーシャルワーカーの必要性が説明できる。 2. スクールソーシャルワーカーの専門的役割や実践活動内容が説明できる。	○	○	◎	◎	○	○					
専 門 教 育 目 的	相談援助演習Ⅰ	1			2						1. 相談援助演習の体系、それぞれの内容と位置づけについて理解できる。 2. 現在生じている福祉的課題・問題(児童虐待、ホームレス、高齢者虐待、DV、引きこもりなど)について理解し説明できる。 3. 社会福祉士の活動領域・場、そこでの具体的な支援内容、役割について説明できる。 4. 社会福祉士としての価値・倫理について理解し、説明できる。 5. 自分自身の価値観や思考傾向に目を向け、対人援助場面における自己覚知の役割について説明できる。 6. 基本的なコミュニケーション技術について理解し、活用できる。			◎			○	◎					
	相談援助演習Ⅱ	1			2						1. 相談援助の展開過程における課題と留意点を理解し、面接技術を活用できる。 2. 相談援助の専門職として求められる価値・実践の原則について理解し、活用できる。 3. 利用者の生活状況を包括的に理解する視点と方法について理解し、活用できる。 4. 利用者の生活状況に介入する方法について理解し、活用できる。 5. 相談援助の視点について理解し、活用できる。			◎	○	○			○	◎			
	相談援助演習Ⅲ	1			2						1. 相談援助の対象者及び地域が抱える課題とその社会的背景について理解できる。 2. 相談援助の展開過程について理解し、実践できる。 3. 相談援助で活用される知識・技術について理解し、実践できる。 4. 相談援助の実践モデル・アプローチについて理解し、実践できる。 5. 相談援助を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。	○	○	◎	○	○	○			◎			
	相談援助演習Ⅳ	1			2						1. 相談援助の対象者及び地域が抱える課題とその社会的背景について理解できる。 2. 相談援助の展開過程について理解し、実践できる。 3. 相談援助で活用される知識・技術について理解し、実践できる。 4. 相談援助の実践モデル・アプローチについて理解し、実践できる。 5. 相談援助を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。	○	○	◎	○	○	○			◎			
専 門 教 育 目 的	相談援助演習Ⅴ	1			2						1. 相談援助の対象者及び地域が抱える課題とその社会的背景について理解できる。 2. 相談援助の展開過程について理解し、実践できる。 3. 相談援助で活用される知識・技術について理解し、実践できる。 4. 相談援助の実践モデル・アプローチについて理解し、実践できる。 5. 地域福祉の基礎整備と開発に係る知識・技術について理解し、実践できる。 6. 地域福祉(活動)計画の策定や福祉サービス評価の手法について理解できる。 7. 相談援助を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。			◎	○	○	○			◎			
	相談援助実習指導Ⅰ	2					←	→			1. 相談援助実習および相談援助実習指導の意義、目的について理解する。 2. 相談援助実習を行う各実習分野および施設・機関について理解を深める。 3. 相談援助実習に臨むうえで必要な姿勢・心構えを身につける。 4. 実習施設が必要とされる知識・援助技術について理解する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	相談援助実習指導Ⅱ	4				2	2				1. 相談援助に係る知識・技術の体系的な理解を深め、実践的に体得する。 2. 相談援助に係る知識・技術を実際に活用し、相談援助職に必要な資質、技能を習得する。 3. 職業倫理を身に付け、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができる。 4. 相談援助実習における課題・実践・実習の学びについて理解する。 5. 相談援助実習での体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を演義する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	相談援助実習	4						←	→		1. 実習を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し、体得する。 2. 社会福祉士として求められる資質、技能、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 3. 職業倫理を身に付け、社会福祉士としての自覚に基づいた行動ができる。 4. 関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的な内容を理解し、実践できる。 5. 実習での具体的な体験や活動を通して、援助技術を概念化し、理論化することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
専 門 教 育 目 的	精神保健福祉に関する制度とサービス	4				4					1. 精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わりについて説明できる。 2. 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について説明できる。 3. 精神障害者の支援において係わる施設・団体・関連機関等について説明できる。 4. 更生保護制度と医療観察法について説明できる。 5. 社会資源の調整・開発に係る社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解し説明できる。	○	◎	○	○	◎	○	○					
	精神障害者の生活支援システム	2				2					1. 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解し説明できる。 2. 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解し説明できる。 3. 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者就労支援に関する制度・施策と相談援助活動(その他の中活動支援を含む)について理解し説明できる。 4. 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解し説明できる。	◎	◎		○	○							
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2		2							1. 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解し説明できる。 2. 精神障害者の相談援助に係る専門職の理念と範囲について理解し説明できる。 3. 精神障害者の相談所における権利擁護の意義と範囲について理解し説明できる。 4. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解し説明できる。		◎										
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	4				4					①精神保健福祉の歴史的変遷が説明できる。 ②精神科リハビリテーションの理念・プロセスが説明できる。 ③相談援助のプロセス及び対象者との援助関係のイメージを説明できる。	○	◎	○	◎								

科 目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		1年次		2年次		3年次		4年次												
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
		1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2											
目	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	4					4			1. 精神保健福祉相談援助活動の展開が説明できる。 2. 地域を基盤とした相談援助の説明ができる。 3. 地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開が説明できる。 4. 専門職である精神保健福祉士の意義や役割が説明できる。 5. 精神保健福祉士の実践場面が想定でき、具体的相談援助のイメージを説明できる。		◎	○	◎	○	○				
	精神疾患とその治療	4				4				1. 精神障害に起こりやすい症状(精神症状)とそれを表現する術語を理解し、内容を説明できる。 2. 精神障害の各々について理解し、その内容を説明できる。 3. 精神障害の治療、社会復帰および社会資源の活用について理解し、その内容を説明できる。	◎	◎		○	○					
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	1				2				相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に理解できる。 専門的援助技術を概念化し理論化し体系立てていくことが理解できる。	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	1				1		1		1. 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し説明できる。 2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し実践できる。 3. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。		○	◎		○	◎	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	1						1	1	1. 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し説明できる。 2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し実践できる。 3. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	
専 門 科 目	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2				1	1			1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。 2. 精神障害者の置かれている現状及び、生活上の困難について理解できる。 3. 精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な、実践的に理解し実践的な技術を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4					2	2		精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。精神障害者の置かれている現状及び、生活上の困難について理解できる。精神保健福祉援助に係る知識と技術について、具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	○	○	○	○	○	○	◎	◎		
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2						1	1	1. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的な実践的に理解し実践的な技術を体得する。 2. 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	○	○	○	○	○	○	◎	◎		
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	2						1	1	1. 利用者やその関係者、施設・機関、事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合いなどの円滑な人間関係を形成することができる。 2. 利用者理解とその必要の把握及び支援計画の作成について理解し説明できる。 3. 利用者やその関係者(家族、親族、友人等)との支援関係の形成について理解し説明できる。 4. 利用者やその関係者(家族、親族、友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価について理解し説明できる。 5. 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践について理解し説明できる。 6. 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務について理解し説明できる。 7. 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について理解し説明できる。 8. 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践について理解し説明できる。 9. 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関して理解し説明できる。	○	○	○	○	○	○	◎	◎		
	精神障害者地域生活支援論	2						2		1. 精神障害者の生活支援の意義、特徴が説明できる。 2. 精神障害者の居住支援や、就労支援について実践と制度施策両面から説明ができる。 3. 地域における精神保健福祉士としての活動が、具体的なイメージをもって説明できる。	○	◎	○	◎	○	○	○			
育 科 目	心理学概論Ⅰ	2	2							1. 心理学とは何か、心理学の目指すもの、人間性のモデル、問題提起と実験法について説明できる。 2. 発達心理学の観点から、人生の各時期の発達特徴について説明できる。 3. パーソナリティとは何か、特性論、類型論、精神動機論、人間学的理論、学習理論などの人格心理学の概要について説明できる。 4. 個人差の評価、人格の測定、知能検査など、臨床心理学の心理アセスメントの概要について説明できる。 5. ストレス、精神疾患の問題、心理学的方法による行動変容など、臨床心理学の心理学的援助の概要について説明できる。 6. 集団規範、リーダーシップ、説得と態度変化など、社会心理学の概要について説明できる。	◎	◎		◎						
	心理学概論Ⅱ	2		2						1. 神経系の仕組み、情報の入力と体罰化などの神経心理学の概要について説明できる。 2. 学習とは何か、条件づけ、行動の制御、社会的学習理論など、学習心理学の概要について説明できる。 3. 記憶と認知の仕組み、言語の性質、言語の発達、推論と問題解決など、認知心理学の概要について説明できる。 4. 動機づけ、情動などの感情心理学の概要について説明できる。 5. 発達研究方法、各機能の発達変容、発達心理学の概要について説明できる。	◎	◎		◎						
	認知行動療法基礎演習	1			2					1. 認知行動療法の歴史、意義、適用を説明できる。 2. 認知行動療法の基本的な考え方、技法、支援過程を説明できる。		○	◎		○					
	発達アセスメント演習	1				2				1. 各種発達検査や知能検査の土台となる理論を理解し、今後の学習に活かすことができる。 2. 検査実施のための技術の基本を身につけ、実践に活かすことができるように努力を始める。 3. 検査結果の取り扱いについて考えを深め、実習等で活かすことができるように努力を始める。 4. 子どもの心理療法の土台となる理論を理解し、今後の学習に活かすことができる。			◎	○	○				◎	
	高齢者臨床心理演習	1					2			福祉臨床心理演習Ⅳでは、高齢者領域におけるアセスメントと臨床心理学的アプローチについて実習やディスカッションを通じて学習を始める。 1. 高齢者を対象とする際の福祉臨床心理学の課題について説明できる。 2. 高齢者、認知症高齢者のアセスメントの実際、心理療法の実際について説明できる。 3. 各アセスメント、心理療法についての理解を深め、福祉専門職の視点からの実践への適用の際の留意点や応用あり方、心理専門職との連携のあり方を検討せよ。				○	○				◎	
	発達心理学Ⅰ	2		2						1. 胎児期の発達特徴について説明できる。 2. 各機能の発達過程と発達の仕組みについて説明できる。 3. 発達と脳の関係について説明できる。 4. 代表的発達理論(フロイトの心理学的発達論、ピアジェの発達理論、ヴィゴツキーの発達理論、ブルナーの発達理論、エリクソンの発達理論)について説明できる。 5. 発達段階と発達課題について説明できる。 6. 発達研究方法について、それぞれ対比させながら説明できる。	○	◎		◎						
	発達心理学Ⅱ	2			2					1. 生涯発達心理学の成り立ちと研究方法について説明できる。 2. 発達段階と発達課題について説明できる。 3. 青年期以降の身体的特徴、知覚、運動機能、セキソリティなどの身体機能の発達について説明できる。 4. 青年期以降の知能、記憶、思考、創造性などの認知機能の発達について説明できる。 5. 青年期以降のパーソナリティの発達について説明できる。 6. 青年期以降の家庭生活、職業生活に関連する自己の発達について説明できる。	○	◎		○						
	発達臨床心理学	2					2			1. 自閉スペクトラム障害のある人たちの特徴について、認知、情動、コミュニケーション、社会性の観点から説明できる。 2. 自閉スペクトラム障害のある人に対する援助法である「対人関係発達指導法(RDI)」の概要について説明できる。 3. 自閉スペクトラム障害のある人への他の援助法と「対人関係発達指導法(RDI)」との違いについて説明できる。	◎	○	○	○						
専 門 科 目	発達臨床心理学演習	2					2			1. 割り当てられた実践研究の内容についてまとめ、報告できる。 2. 報告された研究について、積極的に意見を述べ、ともにディスカッションをし、研究に対する理解を深める。 3. 報告・グループ討議を通して、発達臨床心理学の実践に活かす努力を始める。			◎	○		◎		○		
	障害者心理学	2				2				1. 障害の定義(医学・福祉、教育的立場からの定義)を整理して説明できる。 2. 視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、重度・重複障害者、病前障害者、発達障害者の心理特性の理解と心理的援助の在り方について説明できる。 3. 障害受容の諸説を理解し、障害者及び家族の心理状態に応じた援助について説明できる。	◎	○		○						

科 目	必修	選 修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
教 育 科	臨床心理学概論	2		2								○	◎		○								
	カウンセリング論	2			2								◎	◎		◎							◎
	社会心理学	2					2						◎	◎		○							
	家族心理学演習	2							2				◎	◎	○	◎							
	カウンセリング演習	1							2					○	○								◎
	健康臨床心理学	2							2					◎	○		○						
	スクールカウンセリング論	2							2						◎	◎							◎
健 康 ・ 医 療 関 係 科 目	医学総論	4			4								◎	◎		○							
	微生物学	2		2									◎										
	栄養学	2			2								◎			○							
専 門 科	生理学	2			2								◎										
	解剖学	2			2								◎										
	運動処方論	2				2								◎	◎								
	学校保健	2			2								◎	○		○							
	養護概説	2			2								◎	○	○		○						
	地域保健学Ⅰ	2			2								◎	○	○		○						
	地域保健学Ⅱ	2				2							◎	○	○		○						
	看護学	4			4									○	○		○						○
	基礎看護技術	2				2								◎			○	○					◎

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
			前	後	前	後	前	後	前	後													
専	保健・医療関係科目	看護臨床実習						2	2						○		○		○		◎		
		薬理学								2						◎							
		精神保健学							4						○	◎		○					
		公衆衛生学									2					◎							
		生命倫理								2						○			◎		○		
																○							
教	保健・医療関係科目	保育原理	2	2											◎		◎						
		社会的養護Ⅰ	2						2							◎		◎	◎	◎		◎	
		社会的養護Ⅱ	1						2						○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		教育原理	2					2								◎		○	○				
		保育者論	2	2												◎		○	◎		○	◎	
		子どもの保健	2	2												◎		○					◎
		子どもの食と栄養	2						2	2						◎		○					◎
専	保健・医療関係科目	保育の心理学	2					2							○	◎		○					
		子ども家庭支援の心理学	2					2								◎		○					
		子どもの理解と援助	1					2									◎		○				◎
		子どもの健康と安全	1					2									○		◎		○		◎
		子ども家庭支援論	2						2							○	◎		◎		○		
		子育て支援	1						2								◎		○		◎		
		保育の計画と評価	2						2								◎						◎
		保育内容 総論	1						2								○	○		◎			◎
		保育内容 健康	1						2								◎		○		◎		○
		保育内容 環境	1						2								◎		○		◎		○

科 目	必 選	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
		修	択																		
育 科 目	係																				
	保育内容 人間関係	1			2																
	保育内容 ことば	1		2																	
	保育内容 表現	1	2																		
	乳児保育 I	2			2																
	乳児保育 II	1				2															
	障害児保育	2					2	2													
	保育内容の理解と方法 I	1	2																		
	保育内容の理解と方法 II	1		2																	
保育内容の理解と方法 III	1			2																	
専 門 教 育 科 目	保育内容の理解と方法 IV	1				2															
	保育実習 I	4																			
	保育実習指導 I	2																			
	保育実習 II	2																			
	保育実習指導 II	1																			
	保育実習 III	2																			
	保育実習指導 III	1																			
	保育実践演習	2							2	2											
	専門研究 I	2							2	2											
専門研究 II	2								2	2											
卒業論文	4									2	2										

栄養学科

学位授与の方針 (DP)

栄養学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士 (栄養学) の学位を授与します。

DP 1【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
- 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識および技術を修得している。

DP 2【思考・判断】

- 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

DP 3【関心・意欲】

- 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心をもち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲をもっている。

DP 4【態度】

- 4-1) 専門職業人としての職業倫理をもっている。
- 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身につけている。

DP 5【技能・表現】

- 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

【専門教育科目】

1. 食・物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)
2. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)
3. 将来の進路に合わせた、より深い知識・技術を身につけるため、「食と健康分野」「実践栄養分野」「臨床栄養分野」の科目を修得する。さらに、卒業研究、実践活動、演習を通して、4年間の学びの集大成を行い、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う。(4年次)
4. 栄養士・管理栄養士教育課程の卒業要件に加え、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状の取得に関する科目を設定する。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状が取得できる。

科 目	必 須	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P					
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ	2				2							1. 公衆衛生の歴史及び生命倫理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. 疫学研究の分類、研究手法について理解し、疫学研究の計算ができるようになる。 3. 感染症発症要因について理解し、感染予防法を説明できる。 4. 生活習慣病の発症要因について理解し、疾病予防、健康増進及び健康管理について説明できるようになる。 5. 最新の公衆衛生問題に関心を抱き、疫学統計の視点から観察できるようになる。			◎	○	○	○				
	公衆衛生学Ⅱ	2				2							1. 環境衛生、公害の歴史を理解し、自分の言葉でまとめられるようになる。 2. 食中毒は公衆衛生上重要な内容であることを理解し、食中毒の予防法を他人に説明できるようになる。 3. 母子保健、学校保健では、健康診断の重要性を理解し、虫歯予防の食事指導などについて説明できる。 4. 医療保健制度と地域保健について理解し、栄養士、管理栄養士としての役割を説明できる。 5. 産業保健、精神保健、高齢者保健及び国際保健の内容を理解し、職業病及び精神疾患の予防について説明できる。			◎	○	○	○				
	健康管理概論	2					2						1. 健康の概念、健康状態の歴史を自分の言葉でまとめられるようになる。 2. 健康増進の概念と実際について説明できる。 3. 健康管理の理論と実際について説明できる。 4. 健康行政の歴史と現状および今後の課題について理解し、説明できる。 5. 健康管理における保健医療情報、遺伝子要因と栄養との交互作用による健康影響を理解できる。			◎	○	○	○				
	健康情報処理論	2				2							1. 適切な健康情報を検索・収集できる。 2. 収集した健康情報に関する科学的根拠の有無について判断できる。 3. 科学的根拠のある健康情報を、他者に適切に情報伝達できる。 4. 健康情報を解釈する上で必要な基本的な統計処理を理解できる。		○	○	○						
	社会福祉概説	2				2							1. 社会福祉の理論および援助技術について説明できる。 2. 社会福祉の制度・政策について説明できる。 3. 社会福祉の歴史について説明できる。 4. 社会福祉の諸問題について理解できる。		○	○	◎			○			
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	看護学	2					2						1. 看護の概念について説明できる。 2. 人々の生命を守る看護について一例を挙げて説明できる。 3. 病む人々の苦痛の緩和について一例を挙げて説明できる。 4. 病む人々の自立を促す看護について一例を挙げて説明できる。			○	○	◎				○	
	解剖生理学	2	2										1. 骨と筋肉、血液細胞の働き、免疫の基本的な仕組みについての基本的事項を理解し説明できる。 2. 泌尿器系の基本となるネフロンと集合管について、各部の構造の概略を描き、その働きを説明することができる。 3. 血液循環の仕組み、肺におけるガス交換、血圧と血圧調整の仕組みについて説明できる。		○								
	応用生理学	2		2									1. 個々の内分泌腺が分泌するホルモンについて、分泌の引き金、標的器官、生理作用を説明できる。 2. 男性と女性の生殖系の構造、性ホルモンの働き、生殖の仕組みについての基本事項を説明できる。 3. 神経細胞でのインパルス発生の仕組みや、シナプス伝達など、生物電気の基本事項を説明できる。 4. 自律神経系を構成する交感神経と副交感神経の働きについて説明できる。 5. 三大栄養素それぞれの消化・吸収の仕組みについて説明できる。		○								○
	生化学Ⅰ	2		2									1. 生体化合物群の構造および物理化学的特性 2. 酵素の役割、生理的意義 3. 遺伝情報伝達機構 (流れ) 4. 解糖、クエン酸回路/呼吸鎖/酸化リッ酸化の運動と生理的意義		○	◎	○	○					
	生化学Ⅱ	2		2									1. 代謝各論を理解し、それぞれの生理的意義を高校生以上の学力を持つ人々に説明できるようにする。 2. 複数の代謝経路が互いに相互作用して代謝全体が運営されていることを理解する。 3. 生体内情報伝達機構の概要を理解し、高校生以上の学力を持つ人々に説明できるようにする。 上記の3点に重点を置き、生命現象を化学の目で見つけることができる基地を作るようにする。生体内化合物および化学反応を単に暗記するよりも、生命現象がある意味化学の世界を利用することにより、成り立つものであるという感覚を養うことに重点を置く。		○	○	◎	○					
	病理基礎医学	2		2									1. 肥大・萎縮、細胞死、循環障害、炎症、免疫、感染症、腫瘍などの病理学の基本概念を説明できる。 2. 臨床医学における疾病の診断法と治療の基礎およびFEBMや医学倫理の問題について説明できる。			◎	○	○			○		
	疾病診断治療学Ⅰ	2		2									1. 各疾患の病因・病態を説明できる。 2. 各疾患の身体所見・検査所見・治療法を説明できる。 3. 各疾患の疫学的特徴を説明できる。 4. 各疾患で用いる薬剤の副作用について説明できる。 5. 他の保健・医療従事者との連携・協働する方法を説明できる。			◎	○	○			○		
	疾病診断治療学Ⅱ	2		2									1. 各疾患の病因・病態を説明できる。 2. 各疾患の身体所見・検査所見・食事療法を含めた治療法を説明できる。 3. 各疾患の疫学的特徴を説明できる。 4. 各疾患で用いる薬剤の副作用、手術の合併症について説明できる。 5. 他の保健・医療従事者との連携・協働する方法を説明できる。			◎	○	○			○		

科 目	必修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
専 門 基 礎 分 野	微生物学		2				2							◎			○	
	運動生理学		2				2					○	○	◎				
	食品学Ⅰ		2		2							○	○	○				
	食品学Ⅱ		2		2							◎	○	○				
	加工食品機能論		2			2						○	◎	○				
	調理学		2	2								○		○				
	食品衛生学		2			2						○	○	◎				
	フードスペシャリスト論		2	2									○					
	食品の官能評価・鑑別論演習		2		2	2							○					
	食品流通・消費論		2			2						○	○					
	フードコーディネータ論		2			2						○	○					
	実 験 ・ 実 習	解剖生理学実習	1			3							○	○	○			○
		人体の構造と機能基礎実習	1		3								○	○	○			○
		生化学実習	1			3							○	◎	○			
食品学実験		1			3							○	○	○				
食品栄養実習		1			3							○	○					
食品衛生学実験		1				3							◎				○	
健康情報処理実習		1				3						○	○	○			○	
基礎調理学実習		1		3									○	○			○	
応用調理学実習		1			3								○				○	

専 門 教 育 科 目	科 目	必 修 単 位	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P		
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1											
専 門 分 野	臨床基礎医学実習	1					3													
	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2		2								◎	○						
		基礎栄養学Ⅱ	2		2								◎	○						
	応用栄養学	栄養学概説	2		2								◎	○	○					
		応用栄養学Ⅰ	2			2							◎	○	○	○				○
		応用栄養学Ⅱ	2			2							◎	○	○	○				○
		運動・環境と栄養	2				2						○	◎	○					
		栄養教育論Ⅰ	2				2						○	◎	○	○	○	○	○	○
		栄養教育論Ⅱ	2				2						○	○	◎	○	○	○	○	○
	臨床栄養管理学	2				2							○	○	◎	○			○	
	臨床栄養学	栄養治療学Ⅰ	2				2						◎	○	○	○	○	○	○	○
		栄養治療学Ⅱ	2				2						◎	○	○	○	○	○	○	○
		臨床栄養活動論	1					1					○	○	◎	○	○	○	○	○
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2					2						◎	○	○	○			
		公衆栄養学Ⅱ	2					2						◎	○	○	○			
地域栄養活動論		2					2						◎	○	○	○				
給食計画論		2					2						◎	○	○	○				
給食経営管理論	給食経営管理論	2					2						◎	○	○	○				

科 目	必 選	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次									
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
		修 択															
実験・実習	栄養学実習	1			3						◎	○	○				
	応用栄養学実習	1				3					○	◎	○	○	○	○	○
	栄養教育論実習 I	1					3				○	○	○	○	○	◎	○
	栄養教育論実習 II	1						3			○	○	○	○	○	○	◎
	臨床栄養学実習	1						3				○	○	○	○	○	◎
	公衆栄養学実習	1							3			◎	○	○	○	○	○
	給食経営管理実習 I	1							3			◎	○	○	○	○	○
	給食経営管理実習 II	1								3		◎	○	○	○	○	○
総合演習	総合演習 I	1							2			○	○	○	○	◎	○
	総合演習 II									2			○	◎	○	○	○
	臨地実習 I	1							1週			○	○	○	○	◎	○
臨地実習 II									2週			○	○	◎	○	○	○
臨地実習 III	1								1週			○	○	○	○	◎	○
食と健康分野	調理師論	2	2									◎	○	○	○	○	○
	薬事法規概論	2	2									◎	○	○	○	○	○
	食品機能特論	2							2			○	○	◎	○	○	○
実践栄養分野	実践調理・調理科学演習	1								2				○	○	◎	○
	運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	1								2			○	◎	○	○	○
	国際栄養論	2								2			○	○	○	○	◎

科 目	必 選	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1年次		2年次		3年次		4年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
		修 択																
期・専門研究	臨床栄養管理演習		1						2	1. 疾患・病態および栄養状態を把握し、各種疾患の治療のための栄養ケア計画を立案できる。 2. 身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理できる。 3. 栄養管理ソフトを用いて、常食献立から治療食・療養食へ展開できる。		○	○	○		○	◎	
	ゲノム科学臨床応用論		2						2	1. ゲノムの概念、ゲノム解析技術、遺伝子診断技術について説明できる。 2. バイオインフォマティクスの現状と将来像について説明できる。 3. 遺伝子診断による疾患の発症予想技術について説明できる。 4. 遺伝子診断結果の疾病治療への応用と実践について説明できる。 5. 遺伝子診断結果の栄養治療への応用と実践について説明できる。			○	◎			○	
その他	科学英語文献購読		1						1	1. 英語で書かれた栄養に関する学術論文を読むことができる。 2. 栄養系大学院入試の英語科目に対応することができる。 3. 英語圏の海外留学において、栄養系の科目を履修できる能力を習得する。				○			◎	
	卒業研究		4					4	4	4	1. 研究テーマについて、情報の収集、問題の設定、研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 2. 研究計画に従って研究を遂行し、研究結果を他人に分かりやすい形に整理することができる。 3. 研究に関連する参考文献から情報を収集し、自己の結果と客観的に比較・考察することができる。 4. 研究の成果を、科学的な研究論文としてまとめることができる。	○	○	○	○	○	○	○
	実践活動		2					2	2	1. セミのテーマについて、調査計画・研究計画を立案することができる。 2. セミのテーマについて、文献検索や資料の収集をすることができる。 3. セミのテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。	○	○	○	○	○	○	○	
	管理栄養士演習 I		2						2	2	1. 管理栄養士国家試験教科「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」および「基礎栄養学」の分野のポイントを説明できる。		◎	○				
	管理栄養士演習 II		2						2	2	1. 管理栄養士国家試験教科「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」および「給食経営管理論」の分野のポイントを説明できる。		◎	○				

栄養学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている。
- DP4【態度】
 4-1) 専門職業人としての職業倫理を持っている。
 4-2) 専門的な知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 総合人間科学の科目を通して、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるとともに、管理栄養士及び栄養士にふさわしい豊かな人間性とコミュニケーション能力を養う。
- 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)
- 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)
- 卒業研究、卒業ゼミ、演習を通して、4年間の学びの集大成を行う。また、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力を養う。(4年次)
- 各人が関心のある科目を体系的に履修できることを目的として、総合人間科学、専門基礎分野、専門教育分野の科目の中から、卒業必修科目、栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、及び教職に関する科目をそれぞれ設定する。

科 目	選 択	栄 養 一 種 免	開 講 時 期 ・ 週 授 業 時 間 数								到 達 目 標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次									
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期								
教職概論	2	2		2						1. 教職の意義や教師の職務内容、社会的責任などについて説明することができる。 2. 専門職としての教師に求められる資質、能力について説明することができる。 3. 教員養成の歴史、現状、現職研修の動向について説明することができる。 4. 教職をめぐる改革動向について説明することができる。	◎							
教育原理	2	2		2						1. 教育の理念や思想、原理などについて基本的な事項を説明することができる。 2. 学校教育の歴史や機能について基本的な事項を説明することができる。 3. 現代教育の課題や改革動向について説明することができる。	◎							
教育心理学	2	2		2						・学習のメカニズム (どのように人は発達して、学習し、考え、記憶するのか)の過程を説明できる ・学習活動にかかわる原因帰属や動機づけのタイプを説明できる ・児童・生徒との関わり方のタイプや人格発達の過程を説明できる ・授業形態や評価法を説明できる	◎	○	○	○	○	○	○	
教育社会学	2	2		2						1. 子どもの発達を社会的・文化的条件から理解することができる。 2. 現代社会における子どもの発達に関するトピックスを学び、概要を説明することができる。 3. 子どもの発達を説明する社会学の基礎的概念を活用することができる。	◎		○					
教育課程論	2	2		2						1. 教育課程の意義、編成の原理と方法などの基本的事項について説明することができる。 2. 学習指導要領の内容と特徴について説明することができる。 3. 教育課程改革論など教育課程の現状や課題について説明することができる。	◎							
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2			2					1. 特別活動の特質や課題について理解し説明することができる。 2. 学習指導要領における特別活動の位置づけや内容を理解し説明することができる。 3. 学校・子どもの実態と特別活動における教師の指導性について理解し説明することができる。 4. 特別活動に関わる実践記録を分析することができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○
特別支援教育論	1	1			1					①特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している。 ②特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する学校制度を含む教育課程や支援の方を理解している。 ③特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。				○	◎			○
教育方法論	2	2			2					1. 教育実践の原理や課題などについて説明することができる。 2. 授業の原理や方法を理解し、学習指導案を書くことができる。 3. 実践記録の分析方法を身につけ、分析することができる。 4. 授業改革の課題と動向について説明することができる。	◎							
学校栄養指導論Ⅰ	2	2			2					1. 児童生徒における食に関する課題と指導、管理の意義を理解できる。 2. 児童生徒の食事に関する実態把握と分析方法を理解できる。 3. 学校給食の意義と栄養教育の使命、役割を理解できる。 4. 社会と環境と児童生徒の食の指導との関連性を理解できる。	○	○	◎	○	○	○	○	
学校栄養指導論Ⅱ	2	2				2				1. 学習指導要領が理解できる。 2. 食の指導の全体的な計画方法、各教科における食の指導の内容が理解できる。 3. 食に関する指導案の作成のための基礎知識を獲得する。 4. 食に関する指導の方法論について実践を通して理解できる。 5. 学校、家庭、地域の連携による食の指導の展開方法が理解できる。	○	○	◎	○	○	○	○	○
道徳教育の理論と実践	2	2		2						(1) 道徳と実践にかかわる課題を理解することができる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明することができる。 (3) 学習指導案の基本的な構造を理解することができる。 (4) 道徳の授業実践にかかわる基本的な知識を習得し、模擬授業の形で実践することができる。	◎		○	○				○
生徒指導論	2	2			2					1. 生徒指導の意義・内容を説明できる。 2. 子ども理解の内容・方法を説明できる。 3. 問題行動・トラブル等への対応ができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2		2						1. 生徒と教員間のコミュニケーションについて理解を深め、カウンセリングの技術を使うことが出来る。 2. 学校内外で発生する子どもに関する社会的問題について理解を深めることが出来る。 3. 子どもの問題に対して具体的な援助計画を立てられるようになる。	○	○	○	○	○	○	○	◎
栄養教育実習事前事後指導	1	1						←	→	1. 事前 教育実習の意義と目的、実習にあたっての心がまえ、実習中の注意点を理解し、食の指導に関わる授業研究を実践できる。 2. 事後 実習の習得事項から自省的整理を行い、今後の課題を明確にすることができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○
栄養教育実習	1	1						←	→	1. 食の指導における具体的な研究課題を発見できる。 2. 自己の望ましい栄養教諭像を形成する。 3. 教職に関する実践的・研究的能力を身につける。	○	◎	○	○	○	○	○	○

教職実践演習（栄養教諭）	2	2								2	1. 教職課程関連科目について振り返り、各自に残された課題を確認する。 2. 栄養教諭として求められる資質・能力を具体的な学校場面に位置づけて考えることができる。 3. 信頼される学校づくりに資する栄養教諭のあり方についての理解を深めることができる。 4. 児童生徒等の理解の方法とそれに基づく教育活動について実践力を高めることができる。 5. 食の指導の計画・実施・評価に関する実践力を高めることができる。 6. 栄養教諭としての自律的な成長に必要なリソースの活用法を身につけることができる。	○	○	○	○	○	◎	○
--------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	---	---	---	---	---	---

英語学科

学位授与の方針 (DP)

人文学部英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、基準となる単位数を修得し、以下の素養・能力を有すると認められる者に学士(人文学)の学位を授与します。

- DP1【知識・理解】
 - 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
 - 1-2) 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】
 - 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】
 - 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
 - 3-2) 国際社会や地域社会が抱える課題に関心をもち、課題解決のために自らの能力を高めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】
 - 4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
 - 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
 - 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】
 - 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
 - 5-2) 英語及び日本語による情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 英語学科カリキュラムは、教養教育科目を基盤とし、専門教育科目の「英語スキル科目」、「英語コミュニケーション科目」、「国際理解科目」、「キャリア形成科目」、「地域貢献・国際貢献科目」、「演習・研究」で構成する。
2. 「英語スキル科目」では、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎を育成する。
3. 「英語コミュニケーション科目」では、英語の4技能(聴く、話す、読む、書く)を向上させるため、Active Learningの手法を取り入れた科目や英語文学を含む英語の総合力向上を目指す科目で構成する。
4. 「国際理解科目」では、異文化理解を深め、英語・日本語などを通して、国際社会に関する知識と思考能力などを養う科目と、海外研修に関わる科目で構成する。
5. 「キャリア形成科目」では、国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいく。また、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目では、所定の単位数を修得することで、高等学校教諭一種免許状(英語)、中学校教諭一種免許状(英語)の取得、日本語教員養成課程修了証が授与される。
6. 「地域貢献・国際貢献科目」では、英語を通して地域社会や国際社会における課題解決力やリーダーシップを育成する。
7. 「演習・研究科目」では、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を育成する。

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
実践英語音声学 I	2		2									◎										
実践英語音声学 II	2			2								◎										
文法・コンポジション I	2		2									◎										
文法・コンポジション II	2			2								◎										
英検演習 I	2		2									◎		○								◎
TOEIC演習 I	2			2								◎		○								
英検演習 II	2			2								◎		○								◎
TOEIC演習 II	2				2							◎		○								
英語プレゼンテーション I	2				2							◎										○ ○
英語プレゼンテーション II	2					2						◎										○ ○
英語プレゼンテーション III	2						2					◎										○ ○
英語コミュニケーション I	2		4									◎		○								○ ○
英語コミュニケーション II	2			4								◎		○								○ ○
英語ディスカッション I	2				2							○		○								◎
英語ディスカッション II	2					2						○		○								◎
英語プロジェクト I	2						2					○	○	○	○	○						◎ ○
英語プロジェクト II	2							2				○	○	○	○	○						◎ ○
グローバル英語 I	2								2			○	○	○	○	○						○ ◎ ○
グローバル英語 II	2									2		○	○	○	○	○						○ ◎ ○
リーディング I	2		2									◎		○								○ ○
リーディング II	2			2								◎		○								○ ○
リーディング III	2				2							◎		○								○ ○

科 目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
ケーション科目																						
	リーディング IV		2			2							◎								○	
	英語学概論I		2		2								◎									○
	英語学概論II		2		2								◎									○
	ライティング基礎		2		2								◎									○
	パラグラフ・ライティング		2		2								◎									○
	エッセイ・ライティング		2				2						○	◎	○	○						○
	英語文学I		2		2								○	○		◎						○
	英語文学II		2		2								○	○		◎						○
専門科目	英語通訳演習 I		2				2						○	◎	○	○						○
	英語通訳演習 II		2				2						○	◎	○	○						○
	欧米文化交流研修A		2	2									○	○								◎
	アジア文化交流研修A		2	2									○									◎
	欧米文化交流研修B		2	2									○	○								◎
	アジア文化交流研修B		2	2									○									◎
	メディア英語 I		2	2									◎									○
	メディア英語 II		2		2								○									◎
	時事英語入門		2				2						○	◎	○	○						○
国際理解科目	応用時事英語		2				2						○	◎	○	○						○
	異文化間コミュニケーション I		2		2										◎							○
	異文化間コミュニケーション II		2		2										○							◎
	エリア・スタディ I		2		2								○	○		◎						○
	エリア・スタディ II		2		2								○	○		◎						○
	国際経済入門		2		2								◎		○	○						○
	国際関係入門		2		2								◎		○	○						○
	日本の歴史と文化地理 I		2	2									○			◎						○
	日本の歴史と文化地理 II		2		2								○			◎						○
文化人類学		2				2						○			◎						○	

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2		
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
日本語A		2	4																				
日本語B		2		4																			
インターンシップ		2			2							○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
現代ビジネス人材論		2				2						○		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
職業選択と能力開発		2					2					○		○	○	○	○	○	○	○	◎	○	
簿記入門		2				2																◎	
簿記演習		2					2															◎	
国際ビジネス論		2					2					○		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
航空ビジネス研究		2					2					○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
国際ボランティア演習		2				2						○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
教育ボランティア演習		2					2					○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
児童英語教育入門		2					2					○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○	
児童英語教育研究		2						2				○	○		○						◎	○	
専門演習 I		2							2			○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
専門演習 II		2							2			○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
卒業研究		4								4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	
English Extension I		1		1									○		◎	○						○	
English Extension II		1			1									○	○	○	◎	○				○	
English Extension III		1					1						○	○	○	○	○	○				◎	
English Extension IV		1							1				○	○	○	○	○	○	○				◎

英語学科

学位授与の方針（DP）

- DP1【知識・理解】
1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】
2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】
3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】
4-1) グローバル社会にあつて、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】
5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。
- 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
- 「専門基幹科目」には、異文化理解を深め、英語・日本(語)などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
- 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
- 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
- キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	(高英一語種) 免	(中英一語種) 免	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
教職概論	2	2	2			2							◎							○		
教育原理	2	2	2		2								◎							○		
教育心理学	2	2	2			2							◎							○	○	
教育社会学	2	2	2				2						◎		○							
教育課程論	2	2	2				2						◎							○		
特別活動論及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	2					2					◎							○		
特別支援教育論	1	1	1						1						◎					○	○	
教育方法論	2	2	2							2				◎							◎	
英語教科教育法Ⅰ	2	2	2							2				◎							○	
英語教科教育法Ⅱ	2	2	2								2			◎							○	
英語教科教育法Ⅲ	2	2	2									2									◎	○
英語教科教育法Ⅳ	2	2	2									2									◎	○
英語教科教育法Ⅴ	2	2	2										2								◎	○
道徳教育の理論と実践	2		2				2							◎		○	○				○	
生徒・進路指導論	2	2	2						2						○	○				◎	○	
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2						2						○					◎	○	
教育実習事前事後指導	1	1	1																		○	◎
教育実習Ⅰ	2	2											←	→						○		◎
教育実習Ⅱ	4	4	4										←	→						○		◎
教職実践演習(中・高)	2	2	2																		○	◎

英語学科

学位授与の方針（DP）

DP1【知識・理解】

- 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
- 1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。

DP4【態度】

- 4-1) グローバル社会にあつて、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
- 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
- 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
- 5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（CP）

1. 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。
2. 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
3. 「専門基礎科目」には、異文化理解を深め、英語・日本語などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
4. 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
5. 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
6. 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
7. キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
		1年次		2年次		3年次		4年次											
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
日 本 語 教 員 養 成 に 関 連 す る 科 目	日本語学概論		2								◎			○					
	日本語教育方法論Ⅰ	2	2								◎			○					
	日本語教育方法論Ⅱ	2	2								◎			○					
	日本語教育方法論演習Ⅰ	2			2									◎	○	○			
	日本語教育方法論演習Ⅱ	2			2									◎	○	○			
	日本語教育実習	4								←	→							◎	○

観光文化学科

学位授与の方針(DP)

- DP1【知識・理解】
1-1 グローバル化、情報化が進む社会に対応する基礎的な知識を修得している。
1-2 ツーリズム産業界及び社会全般で役立つ英語および中国語を修得している。
1-3 異文化についての知識と理解を修得している。
1-4 ツーリズム及び地域社会に関わる専門知識を修得している。
DP2【思考・判断】
2-1 現代社会の事態と課題を学際的な視点でとらえることができる。
2-2 現代社会の様々な課題について、課題解決に向けて判断し、提案できる。
DP3【関心・意欲】
3-1 地域や国内外の課題への関心と貢献する意欲を持っている。
DP4【態度】
4-1 ホスピタリティのこころを身につけている。
4-2 多様な価値観を共有し、協働することができる。
DP5【技能・表現】
5-1 キャリア形成に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
5-2 ツーリズム及び地域社会に関わる課題解決に向けての専門的技術を身につけている。

教育課程編成・実施の方針(CP)

- 1. 観光文化学科では、専門的な知識・理解と思考力を育成するために、教育科目を基礎とし、専門教育科目の「異文化に関する科目」、「語学に関する科目」、「ツーリズムに関する科目」、「地域活性化に関する科目」、「ビジネスに関する科目」、「演習・研究科目」の科目群で構成する。
2. 「異文化理解に関する科目」では、異文化や多様な価値観を理解する能力を育成する。
3. 「語学に関する科目」では、英語および中国語でのコミュニケーション能力を向上させるため、基礎から応用へ段階的に修得できる科目で構成する。
4. 「ツーリズムに関する科目」では、ホスピタリティを基礎とし、ツーリズムについて基礎から応用までの専門的な知識の修得と課題への対応能力を養う科目で構成する。
5. 「地域活性化に関する科目」では、地域振興に関わる知識を修得し、地域社会に貢献できる能力を育成する。
6. 「ビジネスに関する科目」には、地域、国内外のビジネスについて、幅広い理解や課題への対応能力を養う科目を配置する。
7. 「演習・研究科目」では、ビジネスや地域活性化に関する演習とおとして、課題解決能力を育成する。

Table with 26 columns: 科目 (Subject), 必修 (Required), 選択 (Elective), 開講時期・選授業時間数 (Semester/Hours), 到達目標 (Learning Objectives), and 15 DP achievement indicators (DP 1-1 to 5-2). Rows include subjects like 観光学入門, 国内旅行実務, 観光関連法規, etc.

科 目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
専 門 科 目	基礎中国語	○			2																1 中国の社会と文化を中国語でスピーチすることができる。 2 中国のやや高度な「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」を習得することができる。 3 中国語文法の向上を習得できる。	
	中級中国語	○			2																	1 中国語の基本文法をしっかり把握できる。 2 各課の新しい単語を正確に覚える。 3 各課の会話練習、ジェスチャーゲーム、グループタスクを楽しむことができる。 4 中国語の総合コミュニケーション力を身につける。
	上級中国語	○				2																1 中国語文法の基本事項を習得できる。 2 更にやや高度な文法事項を習得できる。 3 具体的に日常生活のいろいろな場合のコンテキストにおいて活用できるような中国語の会話ができる。 4 中国語で作文の表現能力を習得できる。
	応用中国語	○					2															1 社会生活に必要な中国語を基本的に習得することができる。 2 中国語全般に渡る高度な運用能力を身に付けることができる。 3 中国語の十分な読解力、表現力、翻訳力を身に付けることができる。 4 毎年実施される中国語検定試験の基礎問題を解答できる。
	ツーリズム中国語	2						2														1 ツーリズム中国語会話を習得することができる。 2 中国のホスピタリティを理解することができる。 3 中国人観光客のおもてなしに必要な知識を勉強することができる。
	中国語通訳ガイド演習	2								2												1 通訳ガイドに必要な語学能力を高めることができる。 2 日中両国の観光文化の相違を理解することができる。 3 中国語でのコミュニケーション能力を身に付けることができる。
	欧米文化交流研修A	▲	2																			1 欧米の国(欧米系)の文化圏の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深める。 4 実践的な英語力を身につける。
	アジア文化交流研修A	▲	2																			1 アジアの国・地域の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深めることができる。 4 外国語の運用能力を身につけることができる。 5 異文化交流のノウハウを身につけることができる。
	欧米文化交流研修B	▲	2																			1 欧米の国(欧米系)の文化圏の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深める。 4 生活の中で、実際に英語の運用能力を活用できる。
	アジア文化交流研修B	▲	2																			1 アジアの国・地域の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深めることができる。 4 外国語の運用能力を身につける。 5 異文化交流を通して、多様性への対応ができる。
異文化 交流に 関する 科目	比較文化論	2	2																		1 現代ドイツの生活と観光地について知識や理解を深めることができる。 2 基礎的なドイツ語に触れ、ドイツ語検定3級の合格を目指すことができる。 3 日独でなぜさまざまな違いがあるのか考えられることができる。	
	欧米観光文化地理Ⅰ				2																	1 西歐の観光地のあり方として、城内や各国内の全体的な特徴と各観光地の取り組みについて、観光学の基礎的な知識を活かしながら理解することができる。
	欧米観光文化地理Ⅱ					2																1 西歐の観光地のあり方として、城内や各国内の全体的な特徴と各観光地の取り組みについて、観光学の基礎的な知識を活かしながら理解することができる。
	アジア観光文化地理Ⅰ	2				2																1 東アジア諸国における国際観光の現状を把握することができる。 2 東アジア諸国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができる。 3 東アジア諸国の地域性や風土人情を把握することができる。 4 東アジア諸国の観光資源を認識することができる。
	アジア観光文化地理Ⅱ	2					2															1 東アジア以外の国における国際観光の現状を把握することができる。 2 東アジア以外の国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができる。 3 東アジア以外の国の地域性や風土人情を把握することができる。 4 東アジア以外の国の観光資源を認識することができる。
	映画で学ぶ欧米文化	2						2														1 現代欧米社会が抱える問題を把握できる。 2 映画の中のような欧米文化が現れているのが分析できる。 3 英米文化の特徴を認識できる。
	キャリアデザイン論Ⅰ	2					2															1 キャリアデザインとは何かを理解することができる。 2 キャリアデザインのための自己理解を身につけることができる。 3 人生をどのように歩んでいくかの考え方を身につけることができる。
	インターンシップ	2						2														1 職務経験を通して、企業等の社会的役割、社会の成り立ち、働くことの意味、責任、チームワークの重要性などを理解できる。 2 自身の職業意識を醸成したり高めたりすることができる。 3 将来の進路につながる実習先の企業等の活動内容、産業の動向を理解できる。
キャリアデザイン論Ⅱ	2							2													1 キャリアデザインについて、理論と実践の視点から理解ができる。 2 自己理解と仕事理解の基本的な考え方が理解できる。 3 仕事のルールや必要となる能力は何かを理解できる。 4 ワークライフバランス、生活学習などの取り組みを理解することができる。	
留 学 生 対 応 科 目	初級日本語	■	2																		1 初歩的な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 初歩的な日本語(外国語)の学習を通して、物事を若干異なる角度から見つめ、また、考えを少し深めることができる。 3 日本語を用いて少しおもしろいことに挑戦できる。	
	中級日本語	■	2																		1 やや高度な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 やや高度な日本語(外国語)の学習を通して、物事を異なった角度から見つめ、また、考えを深めることができる。 3 日本語を用いておもしろいことに挑戦できる。	
	上級日本語	■	1			2															1 高度な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 高度な日本語(外国語)の学習を通して、多角的に物事を見つめ、また、考えをより深めることができる。 3 日本語を用いて意義のあるおもしろいことに挑戦できる。	
	応用日本語	■	1			2																1 難解な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 難解な日本語(外国語)の学習を通して、一層多角的に物事を見つめ、また、考えをさらに深化させることができる。 3 日本語を用いて意義深いおもしろいことに挑戦できる。
演 習・ 研 究 科 目	ツーリズム演習	1				2															1 論理的思考の基礎習得ができる。 2 ツーリズムに関する問題の抽出ができる。 3 ツーリズムに関する的確な情報収集ができる。 4 効果的なプレゼンテーションの基本習得ができる。	
	ビジネス演習	1				2															1 ビジネスや社会で多用される基礎的知識・スキルを修得している。 2 ビジネスや社会で必要な論理的に考え説明する基本的な能力を修得している。	
	地域活性化演習	1				2															1 地域の実態を知ることにより、地域が抱える課題の存在に気づくことができる。 2 地域活性化の意義を知ることができる。 3 事例研究を通して各地の活性化の手法を学ぶことができる。 4 身近な地域を選び、その活性化に取り組みすることができる。	
	専門演習Ⅰ	1						2													1 自分の所属するゼミのテーマの先行研究の概要を理解している。 2 質的研究と量的研究の基礎的な分析ができる。 3 研究テーマにふさわしい調査方法の選択ができる。	
	専門演習Ⅱ	1						2														1 質的データと量的データの分析と活用ができる。 2 所属するゼミのテーマと関係の深い先行研究の概要が理解できる。 3 論文執筆にあたり適切な調査方法を選択してそれを正しく活用ができる。
	卒業研究	4									4											1 問題意識や研究テーマをできるだけ明確にしつつ、その内容についての発表・討論をすることができる。 2 卒業論文制作について、研究計画を立案できる。 3 論理的な考え方ができ、説得的な論考ができる。

助産別科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、ライフサイクル・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
				1-1	1-2		1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1		
				前期	後期									
助産の理論領域 基礎科目	基礎助産学Ⅰ	1	1		2	1. 助産の基本概念と助産に関連する理論の概要について説明できる。 2. 日本における助産師の責務と役割、法的立場づけについて説明できる。 3. ライフサイクル・ヘルス/ライフの基本となる考え方について説明できる。 4. 我が国の母子保健の動向と課題を他国と対比させて説明できる。 5. 助産実践の倫理的課題を説明できる。 6. 助産過程の枠組みと展開について説明できる。 7. 助産師教育や助産の方向性について考えることができる。	◎	○	○					
	基礎助産学Ⅱ	1	1		2	1. 男女のライフサイクルに関する形態・機能、性と生殖に関連する疾患、その対応について説明できる。 2. ライフサイクルに必要な医療機器の操作や検査およびデータの判読ができる。	◎	○		○	○			
	母子の心理・社会学	1	1		2	1. 思春期・青年期の身体的変化および心理的課題を説明できる。 2. 思春期・青年期に特徴的な障害や問題を説明できる。 3. 成人期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 4. 成人期に特徴的な問題を理解し、対応方法を説明できる。 5. 中年期・老年期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 6. 中年期・老年期に特有の問題を理解し、対応方法を説明できる。 7. マタニティサイクルにおける母親・父親の心理的特徴を説明できる。 8. 母子関係・父子関係を築くための親役割について説明できる。		◎		○	○	○		
	助産学研究演習	1	1		2	4	1. 助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基本的方法を説明できる。 2. 文献のクリティックができる。 3. 大学の継続受け持ち妊産婦のケアについて研究的に取り組み、文献をもとに考察を深め発表できる。		○			○	○	◎
	母子栄養学	1	1		2	1. マタニティサイクル各期における健康教育に必要な母子の栄養と食事について説明することができる。 2. 妊産婦と乳児期の前駆栄養について説明することができる。 3. 分娩期・思春期・更年期における健康教育に必要な栄養管理について説明できる。	○	◎		○	○			
	キリスト教と生命倫理	1	1		2	2	1. キリスト教の人間観と世界観を理解し説明できる。 2. 生殖医療・胎児診断と生命科学に関連づけられた生命倫理に対する考え方を理解し、説明できる。 3. 遺伝子検査・不妊相談におけるカウンセリングの対応を説明できる。 4. 産褥期における子どもの生死や障害の受容に対応する親の支援について説明できる。 5. 倫理的見地からみた助産師の役割の重要性を説明できる。		○					◎
助産の実践領域 専門科目	助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	1		4	1. 助産師に必要な妊婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 妊産婦のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 妊産婦のフィジカルアセスメントに基づき、妊婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。		○		◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	1		4	1. 産婦の形態機能に基づいた産婦の身体的・心理的特徴を説明することができる。 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントに基づき、分娩進行状態に応じた産婦に必要なケアおよび健康教育を実施するための知識・技術・態度を習得することができる。	○			◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	1		4	1. 助産師に必要な産褥の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 産褥期のフィジカルアセスメントに基づき、産褥に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。		○		◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	1		2	1. 新生児・乳幼児の形態・機能的特性と適応過程について説明できる。 2. 新生児・乳児のフィジカルアセスメントに必要な診察法とその実施を説明できる。 3. 新生児・乳児に起こる異常と疾患およびその対応方法を説明できる。 4. 出生直後の新生児のケアおよび蘇生法を実施できる。 5. ハイリスク新生児の病態について説明できる。 6. NICUにおける児や家族への支援について説明できる。 7. 乳幼児の成長・発達過程について説明できる。		○		◎			○	○
	助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	1		2	1. 周産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患、その対応について説明できる。 2. フィジカルアセスメントに基づく緊急時の対応法や、他職種との連携を説明できる。 3. 周産期に活用する医療機器の操作や検査・データの判読ができる。 4. 周産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患をもつ対象のケアを説明できる。	○				◎			

助産別科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につながる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方や助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
				前期	後期		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1
専門科目 女性の健康支援論	助産診断・ケアVI(健康教育演習)	2	2		4	4			◎		○	○	○	○
	助産診断・ケアVII(助産過程演習)	2	2		2	2	○			◎	○	○	○	○
	助産管理論	1	1		2		○	◎	○			○		
	助産管理学	2	2		2	4	◎					○		
	地域母子保健	1	1		4		○	◎	○			○	○	○
支援科目 助産の実践領域	総合看護学	1		1	2		○					◎		
	母性の運動科学	1	1		2		◎							
	子育て支援論	1		1	2		◎					○	○	○
	助産学基礎実習	4	4			実習					○	○	○	◎
	助産学実習Ⅰ(正常)	5	5			実習					○	○	○	◎
実習	助産学実習Ⅱ(正常逸脱)	3	3			実習					○	○	○	◎
	助産管理実習	1	1			実習					○	○	○	◎

2018年度 短大一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学の学位授与の方針(DP)					
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
		必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
キリスト教教育	キリスト教Ⅰ	2		◎					
	キリスト教Ⅱ	2		◎					
初年次教育	初年次セミナー	1		◎					
女性と健康	運動と健康	1		◎					○
	スポーツ実技		1	○					◎
	女性とマナー		*1	◎				○	
	女性史		*1	◎					
	共生社会とジェンダー		*1	◎					
	女性と装いの文化		*1	◎				○	
基礎教養	心理学		2	◎					
	文学		2	◎					
	日本国憲法		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎				○	
	経済学入門		2	◎					
	生活の中の環境学		2	◎					
アカデミックスキル	メディアリテラシー		2	◎					○
	情報処理入門		2	◎					○
	英会話入門		1	◎					○
	こどもとふれあう英会話Ⅰ		1	◎	○				○
	こどもとふれあう英会話Ⅱ		1	◎	○				○
	ハングル入門		1	◎					○
	日本語表現法		1	◎					○
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎					
	北九州の技と文化		1	◎					
キャリア形成支援	キャリア開発		1	◎					
	実践キャリアプランニング		1	◎					

※ *は1単位以上必修選択

保育科

学位授与の方針 (DP)

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士(保育学)の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1-2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。
- 3-2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心を持ち、保育者としての社会的な役割を意識する。

DP4【態度】

- 4-1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を探究する力を有している。

DP5【技能・表現】

- 5-1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。
- 5-2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。
- 5-3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。

2. 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩奉仕」を理解させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

3. 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教保育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指している。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進行する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。

4. 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な科目を別途資格免許に係る必修科目として配置している。また、多様化する社会のニーズに対応するためにビジュアル資格、こども音楽療育士、認定ベビーシッター資格が取得できる選択科目を配置している。

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP			
			1年次		2年次																
			前期	後期	前期	後期															
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3					
専門教育科	教職に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	保育者論	2		2														◎	
			保育原理	2		2															◎
			教育原理	2			2														◎
			こども家庭福祉	2		2															◎
			社会福祉	2		2															◎
			社会的養護I	2			2														◎
			こども家庭支援論	2			2												◎		
目	保育の対象の理解に関する科目	教育相談とカウンセリング	2			2													◎		
		保育の心理学	2		2														◎		
		こどもの理解と援助	1			2													◎		

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP					
			1年次		2年次																		
			前期	後期	前期	後期																	
こどもの保健		2		2																◎	○		
こどもの食と栄養		2			4	(4)														◎		○	
こども家庭支援の心理学		2		2																	○	◎	
保育の計画と評価 (教育課程含む)		2		2																		◎	
保育内容総論		1		2																	○	◎	○
保育内容「健康」		1		2																	○	◎	○
保育内容「環境」		1		2																	○	◎	○
保育内容「言葉」		1		2																	○	◎	○
保育内容「表現(造形・絵画表現)」		1		2																	○	◎	○
保育内容「表現(身体・音楽表現)」		1		2																	○	◎	○
保育内容「人間関係」		1		2																	○	◎	○
保育実践の理解と方法		1		2																	◎		
保育メディア演習		1		2																	○	◎	
特別支援教育論 (障がい児保育含む)		1		2																	◎	○	
障がい児保育演習		1		2																	◎		○
子育て支援		1		2																		◎	○
乳児保育Ⅰ		2		2																	◎	○	
乳児保育Ⅱ		1		2																	○	◎	

専門教育科目
 就職に関する科目
 保育の内容・方法に関する科目

授 業 科 目	必 修	選 択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次			1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3
			前期	後期	前期	後期											
こどもの健康と安全	1				2	1. 子どもの健康にかかわる保健活動の計画および評価ができる。 2. 子どもの養護技術が身につく。 3. 救命救急処置および応急処置法が身につく。 4. 保育現場における安全管理の具体的な方策を導き出すことができる。 5. 子どもの健康（心の問題も含む）を取り巻く関連機関との連携の在り方を考察できる。			○							◎	

授 業 科 目	必 修	選 択	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P			
			1 年 次		2 年 次																
			前 期	後 期	前 期	後 期															
保育の内容・方法に関する科目	社会的養護Ⅱ	1				2				◎								○			
	キリスト教保育	2			2			◎										○			
	こども音楽療育概論	2			2				◎									○ ○			
	こども音楽療育演習	1				2												◎ ○			
	こども音楽療育実習	1				5日間												◎ ○			
	在宅保育	2				2												○ ◎			
専門教育科目	教科に関する科目	保育内容の理解と方法	音楽の基礎	1		2					○								◎		
			こどものうたあそび	1			2													◎	
			こどものためのピアノⅠ	1		2														◎	
			こどものためのピアノⅡ	1			2													◎	
			こどものうたと伴奏法Ⅰ	1			2													◎	
			こどものうたと伴奏法Ⅱ	1				2												◎	
			こどもの造形あそび	1			2													◎	
			こどもの運動あそび	1		2														◎	
			こどもの生活とあそび	1				2						◎						○	
			こどもの文学と物語	1				2					◎	○							
			◇	こどもの発達理解とあそび	1			2						○	◎						○
				こども文化	1			2							◎						○
				器楽アンサンブル	1				2												◎
	保育総合表現	2				4									○	○		◎			

授 業 科 目	必 修	選 択	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P
			1 年 次		2 年 次												
			前 期	後 期	前 期	後 期											
◇ 総合演習	こども学基礎演習	2	2	2													
	こども学特別演習	2			2	2											
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2				2											
教育実習	教育実習指導	1															
	教育実習 I	1		1 週													
教育実習	教育実習 II	1			1 週												
	教育実習 III	2				2 週											
保育実習	保育実習指導 I	2	2	2													
	保育実習指導 II	1			1	1											
	保育実習指導 III	1			1	1											
	保育所実習 I	2				10 日											
	保育所実習 II	2				10 日											
	施設実習 I	2				10 日											
	施設実習 II	2				10 日											